開成町の今・昔そして未来
変わりゆく開成町

富士フィルム先進研究所3階屋上から撮影

平成22年4月に開成南小学校が開校し、平成26年度には（仮称）酒匂川2号橋が完成する予定となっている南部地区。土地区画整備事業も進み日々変化を遂げて行く街並みに新しい年の希望をのせて、この地区に暮らす三世代家族である牛島在住の村上さん・井上さんご家族に南部地区をはじめとする開成町の昔、今、未来を語っていただきました。

三世代家族座談会
聞き手：まちづくり情報特派員

啓夫さん
開成町牛島に2世帯で住んでいます。私は昨年から町内の福祉関係のＮＰＯ法人で仕事をしています。妻は小田原でパート勤め。娘は自宅でペットホテルを経営。その夫は会社員です。孫娘は開成南小学校の5年生です。
私は昭和23年に牛島で生まれました。途中仕事の都合で開成町を離れていたこともありますが、昔を思い返してみると、小学校のころは大きい建物は何もなかった感じで、牛島の自宅から開成小学校が見えました。レンゲ畑がずっとひろがっていた印象があります。小さなころは、このレンゲ畑の中で転がって遊んでいましたね。もちろん開成駅もなく高校生になって電車に乗るときは自転車で新松田へ出ました。30代になって横浜へ転勤になり、そのころ開成駅ができました。横浜から実家へ来るたびに足柄大橋や駅ができるなど変化が多かった記憶があります。

特派員
綾香さんの時代はどうでしたか？

綾香さん
子どものころは、虫を取ったりザリガニを取ったりして遊びました。田んぼがたくさんあって・・・

啓夫さん
開成町に商店街は四ツ角しかなく、牛島には「塩屋」があって、いわばそこが牛島の中心でしたね。

特派員
今の開成南小学校の辺りの印象はどうですか？

啓夫さん
田んぼしかない印象です。箱根山が正面に見えて開けた感じ。道路は狭い道路が一本ありましたが、今の開成幼稚園から下（南側）は何もなかった感じです。その何もなかったところがこれから変わろうとしていて、ここ数十年の変化には驚くばかりです。
新しい道は歩道がしっかりしていていいですね。これからこうした道が増えてモデル地区のような街並みになることを期待しています。

葉子さん
（航空写真を見ながら）こうやってみると狭い町ですね。結婚したとき、今の役場が新築できれいな建物だと思いました。

拓美さん
私は、二宮町で生まれました。開成町の名前は結婚するまで知らなくて（笑）

特派員
優菜さんは、昔の話を聞いて今とどっちがいいですか？

優菜さん
今がいいです。

特派員
ふだん遊ぶのはどこで？

優菜さん
家の中が多いです。

啓夫さん
昔は外で遊ぶしかなかったのですが、だんだん変わってきましたね。

特派員
あと10年したらどんな風景になっていると思いますか？

優菜さん
もっとにぎやかになってほしいし、自然もあってほしい。

特派員
町が変わっていく中でこんなものがあったらいいなと思っていることはありますか？

拓美さん
人がたくさん集まるようなショッピングモールがあったらいいですね。

左から　拓美さん　綾香さん　優奈さん　啓夫さん　葉子さん

綾香さん
おしゃれなカフェがあったらいいです。

葉子さん
焼きたてのパンを売るお店がほしいですね。

特派員
将来どういう町になってほしいですか？

拓美さん
開成町が一つのブランドになったらいいですね。子どもが夢を持てる町づくりをしてもらいたいです。大人になっても開成町にずっと住んでいたいと思う町であってほしいですね。

綾香さん
ペット関係の仕事をしているのでペットが家族の一員として暮らしていける町になればいいですね。ペットのマナーがもっと育つことを願っています。

葉子さん
作る人たちは大変だけれど田んぼはこのまま残ってほしいですね。

啓夫さん
不便さと便利さのバランスが取れた町になってほしいと思います。

拓美さん
箱根、小田原に次ぐ第三の観光地になったらすごいですね。それは、自分たちの世代が作り上げていかなければならないと思います。また、親の世代以上の皆さんが培ってきた近所の人たちとのコミュニティーをたいせつにしていきたいですね。

三世代家族の構成

- 村上啓夫（ひろお）さん
  - 村上葉子（ようこ）さん
  - 井上綾香（あやか）さん
    - 井上拓美（たくみ）さん
    - 井上優菜（ゆな）さん

編集後記

○延沢に住む私にとって子どものころ南部地区に行くということは小さな冒険でした。行きも帰りも田んぼのあぜ道をずっと歩いて行きました。夕方になると箱根山に真っ赤な夕日が落ちるのを鮮明に覚えています。変わりゆく南部地区。人と自然が共存した思い出を刻める町になればいいなと思います。（石塚）

○お話を伺っていてこれからが楽しみなご家族でした。10年後に開成町が、このご家族がどうなっているかまた取材したい気持ちになりました。（石崎）